

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成16年度病虫害発生予報第9号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病虫害発生予報第9号（12月）

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
ナス	うどんこ病 灰色かび病 すすかび病 ハモグリバエ類	並 並 並 やや多い	並 並 並 やや多い
トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	並 並 多い	並 並 多い
イチゴ	灰色かび うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	並 少ない やや多い やや多い	並 少ない やや多い やや多い
キュウリ	べと病 うどんこ病 灰色かび病	多い 並 並	多い 並 並
レタス	菌核病 灰色かび病 腐敗病	並 並 並	並 並 並
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	並 並 やや多い	並 並 やや多い
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少ない 並	やや少ない 並

1 冬春ナスのハモグリバエ類

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、被害葉率は15.6%（平年：12.8%、前年：9.3%）であった。

イ 気象予報では、12月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ ほ場周辺の雑草は増殖源になるので、除草を徹底する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 薬剤防除は、使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病害虫についても同様）。

2 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発病株率は6.7%（平年：0.4%、前年：0.4%）であった。

イ 気象予報では、12月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病前または発病初期の防除を徹底する。

エ 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 イチゴのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、寄生株率は2.8%（平年：1.7%、前年：2.8%）であった。

イ 気象予報では、12月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

11月5半旬調査の結果、寄生株率は3.4%（平年：2.0%、前年：11.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

イ イチゴ以外の植物にも寄生するので、ほ場周辺作物や雑草の薬剤防除、除草を行う。

ウ 寄生した株の葉かぎ後の複葉や抜き取った雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。

5 キュウリのべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発病株率は13.0%（平年：3.6%、前年：1.6%）であった。

イ 気象予報では、12月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

イ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

6 キャベツのコナガ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、寄生株率は14.2%（平年：9.3%、前年：3.3%）であった。

イ 気象予報では、12月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 老齢幼虫、蛹及び卵には防除効果が低いので、若齢幼虫期を対象に防除を行う。

イ 結球期までの防除を徹底する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

7 野菜類のコナジラミ類

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年並

(2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、冬春トマトの寄生株率は2.2%（平年：6.0%、前年：0.6%）であった。また、冬春ナスの寄生株率は32.1%、発生ほ場率は100%（平年・前年値なし）であった。

イ 気象予報では、12月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ ほ場内外の雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

1 2 月の気象予報 (1 か月)

(予報期間 1 2 月 4 日 ~ 1 月 3 日)

2 0 0 4 年 1 2 月 3 日
福岡管区気象台発表

【概 要】

向こう 1 か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

【要素別確率】

(単位 %)

要 素	低 い (少 ない)	平 年 並	高 い (多 い)
気 温	1 0	3 0	6 0
降 水 量	2 0	4 0	4 0
日 照 時 間	3 0	4 0	3 0

< 1 週目の予報 > 1 2 月 4 日 ~ 1 2 月 1 0 日

この期間の平均気温は、高い可能性が大きいでしょう。

< 2 週目の予報 > 1 2 月 1 1 日 ~ 1 2 月 1 7 日

この期間の平均気温は、高い可能性が大きいでしょう。

< 3 ~ 4 週目の予報 > 1 2 月 1 8 日 ~ 1 2 月 3 1 日

この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ~ 4 週目の平均気温

向こう 1 か月			平均気温 ()		
平均気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (h)	1 週目	2 週目	3 - 4 週目
8.4	55.4	114.4	9.6	8.7	7.8

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp